

日本語論文・レポートの書き方

~新时代日语系列~

# 日语写作法

【日】平山 崇 编著

「作文」 「论文」 「电子信件」

理论简明

方法具体

例文丰富

日语原味



南京大学出版社

~新时代日语系列~

日本語論文・レポートの書き方

# 日语写作法

【日】平山 崇 编著

「作文」論文「电子信件」

理论简明

方法具体

例文丰富



南京大学出版社

## 图书在版编目(CIP)数据

日语写作法 / 平山崇编著. —南京: 南京大学出版社,  
2011. 2

(新时代日语系列)

ISBN 978 - 7 - 305 - 07957 - 3

I. ①日… II. ①平… III. ①日语—写作—教材  
IV. ①H365

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 256930 号

出版发行 南京大学出版社

社 址 南京市汉口路 22 号 邮 编 210093

网 址 <http://www.NjupCo.com>

出 版 人 左 健

丛 书 名 新时代日语系列

书 名 日语写作法

作 者 (日)平山崇

责任编辑 舒 欣

编辑热线 025-83592123

照 排 南京玄武湖印刷照排中心

印 刷 南京人民印刷厂

开 本 787×960 1/16 印张 17.5 字数 307 千

版 次 2011 年 2 月第 1 版 2011 年 2 月第 1 次印刷

ISBN 978 - 7 - 305 - 07957 - 3

定 价 33.00 元

发行热线 025-83594756

电子邮箱 [Press@NjupCo.com](mailto:Press@NjupCo.com)

[Sales@NjupCo.com](mailto:Sales@NjupCo.com)(市场部)

---

\* 版权所有, 侵权必究

\* 凡购买南大版图书, 如有印装质量问题,  
请与所购图书销售部门联系调换

## はじめに

日本語学科に所属する学生は、日本語で文章を書く機会が多いと思います。日記、エッセイは思いつくままに書いてもかまわないので難しいことはないでしょう。しかしレポートや論文となると、内容が高度で、かつ一定の文字数も必要となるため、簡単にはいきません。そこで参考書を読むことになります。しかしそのような文章の書き方の本は比較的少ないと思います。あっても、語彙や文法解説だけに終始したり、正しい日本語を掲載するだけの本が目立ちます。学習者の立場に立てば、語彙や文法の知識はすでにあるので、説明は不要のはずです。また正しい日本語の文章をいくら見ても、自分の考えや主張をどう表しどう展開していくかを習得することはできません。必要なのは、書き方の具体的方法を教えてくれる本です。

本書は、学習者の要求に応えるべく計画され、編集された指南書です。この一冊で、レポートおよび論文が完成できます。まだ形にならない段階のアイディアを整理し、構想し、情報収集し、語彙や文型の微妙な使い分けを習得し、文を論理的に書いていくことができるようになります。

ところでレポート・論文には一定の形式が要求されます。すなわち、意見や推量の述べ方、記号の使い方、参考文献の記載方法などです。いくら内容が素晴らしくてもこれらの形が整っていなければ失格とされてしまいます。本書では当然この点にも配慮して、詳しく解説しました。

- ・ 第1章では、レポート・論文作成の開始から終了までの過程を俯瞰します。
- ・ 第2章では、文章の形式、および論理の構造と展開を解説します。
- ・ 第3章では、思考内容をいかに日本語の文章で表すか、その方法を提示します。
- ・ 第4章では、記号の使い方、引用の方法などを紹介します。
- ・ 付録では、日本語でのEメールの書き方を解説します。日本人宛の



メールは、単に文法が合っているだけではだめで、敬意が表現されているかどうか問われます。さらに言うと、文法の正確さよりも敬意表現の有無のほうがはるかに重要なのです。

このように、本書は豊かな内容になっていますが、ただ読むだけでは効果がありません。効果を得るには次のことを実行してください。

- (1) 短文でもいいから、実際に書く練習をする。
- (2) 日本語で書かれたレポートや論文に積極的に目を通す。

本書には多くの文の論理パターンや連体修飾のパターンが収録されていますから、その型を真似しつつ、文を書いてみてほしいと思います。そして書くことと同時に、読むことにも力を入れてください。本書で紹介された論理構造や論理展開の知識は、実は読むときにも理解の上で役に立つのです。書くことと読むことは相互に影響し、レポート・論文作成に確実に有形無形の力を与えてくれます。

最後に、本書は私の4冊目の著書となります。本書の執筆に際し、協力してくれた賀小魚さん、りーゆえん、朱穎さんに感謝いたします。なお、今回ほど、膨大な量の書物の上に一冊の新しい本が誕生するという事実を痛感したことはありません。本書で利用させていただいた引用文献、および参考にした文献と、その著作者の方々に、心よりお礼申し上げます。

2010年3月 蘇州にて  
平山崇

# 目 次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| ◇ はじめに .....                    | 1  |
| 序論 .....                        | 1  |
| 文章の原則 10 .....                  | 3  |
| <b>第 1 章 概観——テーマ設定から原稿完成まで</b>  |    |
| 1. テーマ設定 .....                  | 5  |
| 2. 資料・文献の集め方 .....              | 16 |
| 2.1 論文 .....                    | 17 |
| 2.2 サイト .....                   | 20 |
| 2.3 小説・随筆など .....               | 24 |
| 2.4 明治・大正期の刊行図書 .....           | 28 |
| 2.5 辞書 .....                    | 29 |
| 3. アイディアの整理・図式化・配列 .....        | 30 |
| 3.1 流れ .....                    | 30 |
| 3.2 その他 .....                   | 33 |
| 4. 構成 .....                     | 35 |
| 4.1 レポート .....                  | 35 |
| 4.2 論文 .....                    | 36 |
| 4.3 書式など .....                  | 39 |
| 4.4 最終チェック .....                | 40 |
| <b>第 2 章 構造——文章の組み立て</b>        |    |
| 1. 接続詞 .....                    | 43 |
| 1.1 順接(したがって、すると、そこで、だから) ..... | 44 |
| 1.2 逆接(ところが、しかし) .....          | 52 |



|     |                               |     |
|-----|-------------------------------|-----|
| 1.3 | 添加(また、しかも、そして、そのうえ、さらに)       | 56  |
| 1.4 | 転換(さて、それでは、ところで)              | 64  |
| 1.5 | 同列(たとえば、いわば、結局、すなわち、つまり、要するに) | 70  |
| 1.6 | 補足(実は、もっとも、なぜなら)              | 79  |
| 1.7 | 接続詞の練習                        | 83  |
| 2.  | 論理の構造                         | 90  |
| 3.  | 論理の展開                         | 95  |
| 3.1 | パターン                          | 95  |
| 3.2 | 検証                            | 107 |
| 4.  | 主題文と補足文                       | 112 |

### 第3章 表現——思考の文章化

|     |                  |     |
|-----|------------------|-----|
| 1.  | 連体修飾             | 117 |
| 1.1 | 連体修飾文の構造         | 117 |
| 1.2 | 連体修飾文の解説         | 122 |
| 1.3 | 連体修飾文の練習         | 129 |
| 2.  | 「は」と「が」          | 132 |
| 2.1 | 「は」の主題性          | 132 |
| 2.2 | 「は」の対比性          | 142 |
| 2.3 | 従属節              | 147 |
| 2.4 | 「は」と「が」のその他の機能   | 153 |
| 2.5 | 「は」・「が」と旧情報・新情報  | 157 |
| 2.6 | 文の書き出し           | 164 |
| 2.7 | 文章における「は」と「が」の実例 | 167 |
| 3.  | 誤用               | 173 |
| 3.1 | 単語               | 173 |
| 3.2 | 文法               | 179 |
| 4.  | 文                | 187 |
| 4.1 | 文体               | 187 |
| 4.2 | 単文と複文            | 191 |
| 4.3 | 肯定文と否定文          | 192 |
| 4.4 | ヴォイス             | 194 |
| 4.5 | 接続               | 201 |



## 第4章 表記——文章の外観

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 1. 送り仮名・記号・その他 .....    | 211 |
| 2. 引用 .....             | 220 |
| 2.1 引用時の原則 .....        | 221 |
| 2.2 引用の方法 .....         | 222 |
| 2.3 本文中の引用元の記述方法 .....  | 224 |
| 2.4 巻末の参考文献の記述方法 .....  | 226 |
| 2.5 本の奥付の見方 .....       | 229 |
| 2.6 参考文献の配列 .....       | 234 |
| 2.7 参考文献の記述の多様性 .....   | 236 |
| 3. 注記 .....             | 237 |
| 3.1 方法 .....            | 238 |
| 3.2 種類 .....            | 241 |
| 3.3 引用・注記・参考文献の関係 ..... | 242 |
| 4. 定型表現 .....           | 247 |
| 4.1 推量表現 .....          | 247 |
| 4.2 引用表現 .....          | 249 |
| 4.3 提示表現 .....          | 251 |
| 4.4 話し言葉と書き言葉 .....     | 253 |
| 4.5 使用しない表現 .....       | 255 |
| 4.6 注意すべき表現 .....       | 256 |
| 附録——Eメールの書き方 .....      | 259 |
| ◇ 例文出典 .....            | 267 |
| ◇ 参考文献 .....            | 269 |

## 序 論

### ＜書くことの意義＞

「書く」という行為は知的な作業です。主観性に陥らず、客観性を保ち、なおかつ論理的に思考を進めて、妥当性のある結論を導くには、一定の知性が要求されます。それに加えて、外国語である日本語で文章を書くわけですから、その難易度はさらに高くなります。大変な作業ですが、あなたの頭脳は確実に鍛えられます。具体的には日本語力、論理力、構成力、文章力などが伸び上がります。そしてこうして育成された能力はあなたが仕事するときに必ず役に立ちます。ですから、「単位を取るため」とか「卒業するため」という小さな目的意識ではなく、「将来の仕事のため」という大きな意識でレポート・論文に取り組みましょう。ですから当然、本を読んでまるごと書き写したり、コピー・アンド・ペースト(copy and paste)してインターネット上の文章をそのまま自分のレポートとしたりするのは、忌避すべき行為となります。

### ＜客観性＞

次に、客観的、ということを考えてみましょう。これは特定の立場、価値観、主義に捕らわれずに、対象をありのまま観察し、描写し、考察することを指します。しかし人間の思考様式は意外なほど非論理的にできています。たとえばみなさんが初めてアメリカ人に会ったとします。そのアメリカ人 Aさんは不親切でした。後日、アメリカ人のBさんに会いました。するとBさんもまた不親切でした。このとき、みなさんは「アメリカ人はみんな不親切だ」と評価を下すことでしょう。つまりAさんとBさんというたった二人の印象から、アメリカ総人口2億5千万人全体を評価したわけです。これが非論理的であることは言うまでもありません。感情は、思考の論理性を誤らせる罠なのです。先入観、偏見に対しても同様に気をつけなければいけません。これらは色のついたサングラスのようなもので、それを付けた状態で対象を見ても、真実の姿を見ることはできません。客観的研究態度を身に付けるには、まず自分の



感情、先入観、偏見から自由になることです。

### ＜知識の追求＞

知識は多ければ多いほど多様な思考が可能となります。例えば、Aという現象が起きました。そのときZという一つの知識しかないと、AをZの観点からでしか分析、解釈できません。しかしV、W、X、Y、Zという広範囲な知識があると、Aを多角的に見ることができ、より科学的、総合的な解釈をすることができるのです。中国語、日本語を問わず、できるだけたくさんの文献に目を通しましょう。

特に日本語の文献では、様々な語彙や文型を目にすることになります。知らない単語を調べたり、新しい表現をノートにメモしたりして、日本語自体の知識も増やしていきましょう。

### ＜わかりやすさ＞

最後に、書くときの心構えとして、「わかりやすく書くこと」を挙げておきます。論文の目的は研究成果を読者に伝達することです。論文を権威づけるために敢えて難解な文章を書こうとする人がいますが、それはむしろ読者を遠ざける態度なのです。内容と文章の難易度によって、下記のように4つのパターンが生じることになります。みなさんは(1)と(2)を目指してください。

- (1) 難しい内容を簡単な文章で書く
- (2) 簡単な内容を簡単な文章で書く
- (3) 難しい内容を難しい文章で書く
- (4) 簡単な内容を難しい文章で書く

そのほか、文章を書くときの原則 10 を次ページに挙げます。詳しい説明はそれぞれ本文を参照してください。

## 文章の原則 10

1. 基本として、普通体(簡体)で書く。  
→第3章/4.4.1「文体」参照
2. 基本として、「は」を使う。「は」が使えないとき、「が」を使う。  
→第3章/2.「は」と「が」参照
3. 基本として、能動文を使う。能動文が使えないとき受身文、使役文、使役受身文を使う。  
→第3章/4.4.4「ヴォイス」参照
4. 基本として、「である」「のである」を使う。単調さを避けるために時折「だ」「のだ」を使う。  
→第4章/4.4.1「文体」参照
5. 基本として、動詞の接続形は「連用形」を使う。イ形容詞の接続形は「〜く」を使う。それぞれ使えないとき、「テ形」を使う。  
→第3章/4.4.5「接続」参照
6. 論理の展開の際に、文法的正しさ、論理的正しさ、双方を心がける。  
→第2章/1.「接続表現」、2.「論理の構造」、3.「論理の展開」参照
7. 連体修飾を効果的に使って表現する。  
→第3章/1.「連体修飾」参照
8. 中国語と日本語の違いを意識し、誤用に気をつける。  
→第3章/3.「誤用」参照
9. 自分の考えと参考文献の主張を区別し、適切に引用する。  
→第4章/2.「引用」、3.「注記」参照
10. レポート・論文に適した構成、記号・言語表現をする。  
→第1章/4.「構成」/第4章/1.「送り仮名、記号、その他」、4.「定型表現」参照



# 第 1 章 概観

## ——テーマ設定から原稿完成まで

### 1. テーマ設定

レポートでも論文でも執筆するにはテーマが必要です。テーマが先生から与えられているならそれに従えばいいですが、自分で決めなければならないときは迷うものです。テーマを設定するためには、「自分の関心のある事」を出発点にして、具体的に掘り下げていく方法がよいでしょう。思いついたまま適当にテーマを決めても途中で挫折しますが、興味がある事柄なら、調べて書いていく過程で知的好奇心が満たされ、最後まで書ききることができます。テーマ設定は、以下の順で行います。

#### (1) 自分の関心と研究テーマを結合させる

担当教師から「日本語教育について調べなさい。具体的テーマは自由です」と指示されたとします。この場合、「日本語教育」は枠組みになります。この枠内で、あなたの興味のあることを探します。まずは日本語教育の関連事項を明らかにしましょう。文字、語彙、文法、音声、教師の資質などいろいろなものが考えられます。これらをざっと見て、何にもっとも引かれるでしょうか。「中国語と日本語の漢字」について興味を持っているなら、文字や語彙が関係してくるでしょう。

もしも先生から指示がなければ、枠組みは最大限に拡大します。それで迷ったり途方に暮れたりするかもしれません。しかし出発地点はあくまでも“自分の関心”なのです。たとえばあなたが文学者魯迅のことを深く尊敬しているとします。魯迅は日本の仙台に留学し、藤野先生から医学と日本語の指導を受けました。ここで魯迅と日本・日本語の関連を求めると、「仙台はどんな町か」「藤野先生はどんな人か」「魯迅は当時どんな日本語を書いたのか、どんな日本語の間違いをしたのか」「魯迅が翻訳した日本文学は何か」などの主題が浮かび上がってきます。



このように、レポートや論文を書く前にすべきことは、自分が何に関心があるかを明確にすることなのです。これに「自分の好きなこと、特技は何か」、「自分が持っている専門的知識は何か」を付け加えることもできます。

ノートに一つひとつ書き出してみましょう。下に例を示します。

- ① 自分はIT用語を結構知っている。
- ② ジャッキーチェン(成龍)が好きだ。
- ③ 三国志が好きで、繰り返し読んでいます。

①のIT用語は英語で作られています。中国の場合、すべて漢字で表わされますが、日本語はカタカナで書きます。例えば「computer」は「コンピューター」、「key macro」は「キーマクロ」です。すると、「CとKは、カキクケコに対応しているのだろうか」「erとeyは、日本語の長音に該当するのか」などの規則性が見えてきます。これを面白いと感じるなら、テーマは「英語の文字とカタカナの対応」で良いでしょう。

②のジャッキーチェンは、中国で非常に有名ですが、日本でも同じくらい有名です。しかし周傑倫はジャッキーほど有名ではありません。中国での知名度と日本の知名度が一致しないことがあるわけです。そこにはどのような原因が働いているのでしょうか。メディアの露出度のほか、両国の市民の性格・嗜好性の違いもあるかもしれません。このようにジャッキーチェンを題材にしてテーマを設定することができます。

③の三国志は日本でも人気があり、小説や漫画が書かれ、ゲームも作られています。なぜ日本に人気があるのか、理由を追究するのもいいでしょう。三国志の武将と、日本の戦国時代の武将を比較検討しても面白いです。

以上のようにすれば、研究テーマは簡単に見つかります。このとき、テーマを厳密に設定する必要はありません。大まかで、曖昧で、漠然としていても一向に構いません。言わば仮のテーマです。ここから、授業を受けたり、読書したり、友達や先生と話したりする中で、仮テーマを具体的にしていきます。

特に重要なのは読書です。仮テーマに関する本や雑誌をいろいろと読んでみましょう。インターネットで論文や記事を閲覧することもできます。ここでは幅広く知識を得ることを目的にしているので、全文を丁寧に読む必要はありません。面白いと思うところ、重要だと思うところを読めばいいでしょう。

例えば「中国語と日本語の漢字」という仮テーマの下で読書をしているうちに、日本の国字、つまり日本人が独自に作った漢字というものの存在を知りま



した。日本人が生活上、よく使う概念があって、それを言葉にして表わしたいが、該当する漢字がない、だから作り出した。こういう背景が想像できます。また読書を通して、「言葉は民族と密接に関わっている」ということも知りました。ならば、国字から、日本人特有の生活や考え方がわかるかもしれない。そしてそこから中国人との違いを比較検討することもできる。これは面白そうだ。……と考えたとき、この学生のテーマは決まったようなものです。仮テーマという曖昧な形を、知識と好奇心の彫刻刀で削っていき、最終的に真のテーマの像を作り出したわけです。

### (2) テーマが他者と重複していないか確認する

さて、テーマが決まったら、過去に別の誰かが同一のテーマで論文を書いていないかどうか確認します。1000字程度の簡単なレポートなら気にしなくてもいいのですが、卒業論文など大規模なものはチェックが必要です。もし同じテーマの論文が既にあるなら、テーマを変更しなければいけません。その先行研究を読んで、理解を深めた上で、まだ研究の余地がある領域を探します。先行研究については、学術誌の目次やyahoo、百度などの検索エンジンで調べます。

### (3) 関連する本を読む

テーマが確定したら、次は本格的な読書です。これまでは広範囲に渡る文献を読んできましたが、今後は範囲を狭めて、テーマに直結する文献に目を通します。このときは受動的な態度で読むのではなく、問題意識や疑問を持ちながら読んでいきます。重要な箇所には赤いボールペンで線を引いたり、付箋(ふせん)を付けたりします。自分の考えがあるなら本の余白に書き込みましょう。このため、図書館から借りた本は部分的にコピーします。またパソコンの画面上の論文や記事もプリントアウトします。よく参照する本は書店で購入して手元に置きましょう。

読む文献は中国内で発表されたものが中心になるでしょうが、日本人が日本語で書いた書籍や論文もおろそかにしてはいけません。中には難解な日本語の論文もあるでしょう。そういうものは読解自体に多くの時間を奪われてしまい、非効率的ですので、思い切って諦めて、他の論文を当たったほうが良いと思います。また一冊の書物の中にも、研究テーマに関連するものと関連が薄いものがありますから、重要なものを優先的に読んだほうがいいでし



よう。レポートにしても論文にしても、締切という時間的制約があるので、時間に余裕があれば全部読む、という態度を取ります。

目を通した文献は、下記のように、著者名、出版された西暦、本の題名、出版社名を忘れずにノートにメモしておきます。引用するならページ数も書いておきます。

- ・ 小笠原喜康(2003)『インターネット完全活用編大学生のためのレポート・論文術』講談社
- ・ 川上潤(編)(2007)『国文学 解釈と鑑賞』第72巻8号、至文堂
- ・ グループ・ジャマシイ(編著)(2003)『日本語文型辞典』くろしお出版、56—58ページ

これを書いておかないと、いざ自分が論文を書くとき、調べなおすことになり、大変面倒です。論文中の参考文献の詳しい書き方は、本書の第4章「2. 引用」を参考にしてください。

#### (4) その他の方法

研究テーマを探すとき、他の人の論文のタイトルを眺めてみるのも一つの方法です。膨大なタイトルの中に、自分の関心が引き付けられるものが必ずあるはずです。例えば「語彙・表記」の「「頭」の慣用句について」を見て、少し好奇心を持ったとします。そして「自分は頭ではなく、顔の慣用句により強い関心がある」と思うなら、それを自分のテーマにすればいいのです。

下に示すのは、2005年に発表された中国の日本語学科の学生の主な卒業論文を、13のカテゴリに分類したものです。各カテゴリには様々なタイトルの論文が含まれています。

1. 音声
2. 方言
3. 語彙・表記
4. 文法・語用
5. 日本語教育
6. 文学
7. 文化・思想
8. 社会・風俗
9. 中日文学比較



10. 文化・思想の中日比較
11. 社会・風俗の中日比較
12. 中日言語の対照
13. 中日関係・その他

#### <1. 音声>

- 1) 中国学習者の日本語アクセント傾向についての調査—助動詞の付いた動詞を発話資料を中心に
- 2) 日本語の字音語と古代中国語の発音との対照研究
- 3) 漢語の韻母と日本語の音読みの長音についての対応関係
- 4) 中国人日本語学習者に見られる音声上の問題点—間延び現象について
- 5) 中国人日本語学習者の音声学習に関する考察—アクセントを中心に

#### <2. 方言>

- 1) 関西弁(京都弁)と共通語の敬語づかいの比較
- 2) 北海道方言の生まれと発展
- 3) 大阪弁及び大阪人の意識
- 4) 中国語の呉方言が日本語に対する影響
- 5) 標準語と方言についての音訛現状の比較
- 6) 日本語の方言研究について

#### <3. 語彙・表記>

- 1) 「頭」の慣用句について—一字義どおりの意味と慣用句的意味—
- 2) 日本語の色彩語における「青」と「緑」の比較について
- 3) 「三字漢語+的」について
- 4) 日本語の「耳」について—その意味の拡張から検討する
- 5) 和製英語について
- 6) 日本語の擬音語と擬態語について
- 7) 流行語が将来の日本語に与える影響について
- 8) 自動詞と他動詞についての研究
- 9) 「あまり、あまりに、あまりにも、やたらに、そんなに、たいして」の区別
- 10) 日本語の漢字—接尾語「的」を中心に
- 11) 「親愛語」の役割について—「ちゃん」を中心に
- 12) 接続副詞—「しかし」と「ところが」について
- 13) 文語敬語と口語敬語との対照比較研究